

## 牛と人との力比べの奇祭

五穀豊穰を祈る牛乗式ごこくほうじょう

富山県射水市いみすしの下賀茂中部。射水平野の東に位置し、東西を富山市と新湊市しんみなとにはさまれている。

古くは京都・下鴨神社の荘園として開けたところで、江戸時代には参勤交代の街道筋にあり、宿場町として栄えた。現在は、おいしい米の産地として知られる。

ゴールデンウィークの五月四日、近在は祭り一色に包まれる。加茂神社（一〇六六年の創建と伝えられる）の加茂祭り、通称を「やんさんま祭り」といい、走馬・牛乗式そうまうしのりしき・流鏝馬式やぶさめしきなどの諸行事が行われる。

「やんさんま」とは、馬に乗って射る「やぶさめ」が転訛てんかしたものという。平安末期から伝わる神事は、一九六七年に富山県の無形民俗文化財に指定されている。

祭りのなかでひととき異彩を放っているのが、中盤に行われる牛乗式で、奇祭として全国に知られている。

田の神が乗った牛をねじ伏せて座らせるもの。

牛を座らせることによって神がとどまり、五穀豊穰をもたらすという、いわれに従い行われる。



田の神は、よろいかぶとに身を固め、踏込袴ふみこみばかまに白足袋の武者姿で、大きな目と鼻の牛乗りの面をつけている。

まさに奇祭のイメージを盛りあげる異様なスタイル。かぶとには和紙製のボタンの花をかざすが、これは依代よしろとされる。

午後三時半ごろ、田の神が牛にまたがって登場。

「天下泰平、五穀成就」と唱えながら、一丈二尺（約三・六メートル）もある大弓で拝殿の屋根へ矢を放つ。

矢には五穀豊穰、魔よけの御利益があるといわれるので、見物客はこの矢を奪おうと殺到する。

この後、氏子代表の若者約二十人が牛をねじ伏せようとするが、興奮した牛も必死になって抵抗する。

牛と人との力比べに、祭りはいやがうえにも緊張の度合いを強め、クライマックスへと向かう。